

「メキシコとの出会い」



川原 英一※

永田町に唯一ある外国公館

東京に数多くある大使館の中で、政治の中心地、永田町にあるのはメキシコ大使館だけです。これには理由があります。江戸幕府が幕末に西欧列国と結んだ通商条約は、関税自主権と領事裁判権が日本側にない不平等条約であり、明治政府になり、これら不平等条約を改正することは大きな目標・悲願となりました。日本との平等条約に最初にに応じてくれたのはメキシコでした。1888年に駐米日本公使の陸奥宗光（メキシコ公使を兼任、後の外務大臣）が駐米メキシコ公使と日墨修好通商条約に署名しています。明治政府は、平等条約に最初にに応じてくれたメキシコ政府への感謝の気持ちから、永田町の好立地にメキシコ公使館を開設することに便宜を図ったといわれています。

日・メキシコ交流の始まり

日本とメキシコの交流の始まりは今から415年ほど遡ります。1609年、スペイン領フィリピンからメキシコへ向かうガレオン船（サンフランシスコ号）が嵐に遭遇して千葉県御宿町近くの海で座礁して海岸に漂着。これをみた地元住民が、ガレオン船乗組員らを救出しています。その後、徳川幕府が建造したガレオン船で救助された乗組員一行がメキシコに帰国しています。1611年には、メキシコにいたスペイン副王が返礼のために日本へ派遣した一行が、家康に金銅製の洋時計などを献上したそうです。こうした日本とメキシコ間の人的交流がご縁となり、2009年に日・メキシコ交流400周年を記念した行事があり、当時の徳仁皇太子（今上陛下）が日本側名誉会長を務められています。

私のメキシコとのかかわり

私がメキシコと直接かかわったのは、2002年から始まった日本とメキシコの経済連携協定交渉に交渉官の一人として従事した時です。日本にとっては初めての本格的な二国間での自由貿易協定交渉でした。協定交渉は、毎月、東京とメキシコとの間を双方の交渉団が往復しました。途中、交渉が不調となり、一時、中断もありましたが、2年の歳月をかけて基本合意に至りました。同合意文書（英語が原文）は本文177条、物品に関する関税譲許予定表、付属文書を含めると3千頁の大部のものでした。協定文は国内批准手続きのため日・西語に翻訳され、2005年4月に同協定が発効しました。その後、両国間の貿易・投資は顕著に増え、メキシコに進出する日系企業数は急増しました。

メルバ・プリア駐日メキシコ大使との懇談

今年 8 月中旬、プリア（Pria）メキシコ大使から家内と共に大使公邸でのお昼にお招きを頂いた。メキシコ大使館は参議院議長公邸の裏にあり、大使館敷地内に大使公邸もあります。大使館のお向かいには日比谷高校です。プリア大使とは 2019 年 6 月に着任された時に初めてお会いして以降、時折、各国大使館主催レセプションでお会いする機会がありましたが、大使公邸での大使と 3 人だけのプライベートな昼食は初めてでした。

招かれた当日、同大使館入り口を入ると大使館員の出迎えがあり、公邸玄関に案内されて玄関のドアが開くと、そこにプリア大使がにこやかなお顔でお待ちされていました。御挨拶した後、広い応接間に通され、訪問者名簿に署名を求められました。ソファーに座ろうとすると、冷たい飲み物（ハマイカ）が供されて、すぐに打ち解けた雰囲気での会話が始まりました。

プリア大使は、令和の御代に入り、今上陛下へ信任状捧呈を行った初めての外国大使です。応接セットの横にあるテーブル上には、信任状を捧呈中の同大使の写真、及び東京駅丸ノ内側駅長室から皇居に向かう際の宮内庁から供された馬車に乗っている大使の写真も飾られており、お手に取り見せて頂きました。その後、食事を頂きながら、同大使から興味深いお話をお伺いしました。印象深く感じたことを以下ご紹介いたします。

「日比谷高校デー」

同大使から日比谷高校デーをメキシコ大使館内で毎年実施していますと切り出された。プリア大使が赴任した後、日比谷高校卒業生で、その後、社会人となり活躍されている方々と話す機会も多く、会話の中で日比谷高校出身ですという方は多くいるのに、すぐ向かいにあるメキシコ大使館について語る人がいない事情に気づかれたプリア大使は、メキシコ大使館を同高生徒に開放する日を毎年設けることを決められた。高校側との日程調整に時間がかかり、実現まで 1 年がかりでしたが、毎年 3 月中旬、日比谷高校 1 年生が同大使館を訪問して、講演会、伝統的ゲーム、民族衣装体験行事などを通じてメキシコを高校生たちによく知ってもらえる機会になったと大使が嬉しそうにお話しされた。家内から素晴らしいお話であり、孫の通う都内の私立校にも、もしお声をかけて頂ければ、とても良い機会だと歓迎されるものと思いますとお話しました。

カバーニャス・メキシコ大使のこと

カバーニャス・メキシコ大使は、2004 年に日本大使に着任された方です。日・メキシコ経済連携協定（JM・EPA）が発効して数年経過した頃、同大使主催で公邸にメキシコに関係している日本関係者を多数お招きになり、同協定が発効した後、日本とメキシコの貿易が顕著に伸び、メキシコへの投資は 3、4 倍となり、メキシコへ進出した日系企業数が協定発効前の 4 百社程度から、急増したことを大いに喜

んでいますと、日本側関係者に話されたことがありました。

カバーニャス大使と直接にお話した際、大使夫人を紹介されて、野口英世博士がおられたニューヨークの医学校の後輩になりますと述べられ、野口博士がロックフェラー財団からメキシコに派遣されて黄熱病ワクチン研究活動をされたことを知り、生誕地の福島県猪苗代町に出かけたところ、町民から大使夫妻が大歓迎されたとお話を披露された。

プリア大使から、メキシコ大使館の敷地内に植えられているサボテンを植樹されたのは、カバーニャス大使ですと話された。同大使館の塀の外側にも食べることができるサボテンが大きく育っていますと帰り際にプリア大使からお伺いしたので、実際に確認して写真に収めました。

漢字・平仮名

プリア大使から漢字の話もありました。漢字が大好きであった祖父から漢字について時折聞いて興味を持つようになった、漢字を習うのは難しい、今の中国では簡略化された漢字を使用し、4千字程度を専ら使用している様ですとの指摘がありました。私からは、日本では、昔の字体の漢字を近年まで使用していたこと、数万にも及ぶ漢字が使用されていたけれど、今は使用する漢字数が少なくなり、漢字をよく知る人でも5、6千字程度ではないか、当初、漢字は男性が使う場合が多く、平仮名が漢字から作られて、平安時代には女性の間で普及したようです。又、漢字表記すれば明らかでも、平仮名にすると、いろいろな意味の区別がつかないことが、しばしば出てきます、例えば、「はし」と表記・発音しても、橋、箸、端などの区別が容易でないことを話しました。家内から、孫の学校では毎週、漢字テストがあり、好成绩を維持するのは、それなりに大変ですと漢字教育の現状を大使にお話ししました。

同大使から、中国では漢字の発音が違うと意味が全く違うことになるという指摘もあり、私から、北京語では4声、広東語で12声の声調があり、上がり下がりなどの抑揚を間違えて発音すると意味が通じなくなり、難しいことを申し上げた。

タイの自動車企業とメキシコ自動車企業間の取引

メキシコで日系自動車メーカーが2005年以降に急増し、メキシコからの自動車輸出台数が2010年代には世界5位にまでなっています。私が2001年まで勤務したタイでは、日本の自動車メーカー各社が現地生産・輸出していて、タイが東洋のデトロイトだとその当時に報じられていたと申し上げたところ、大使から、最近、タイとメキシコ間での自動車・同部品の輸出入が活発になっていることを指摘された。日本と深い関係のある国の企業間で自動車・部品のサプライ・チェーンが形成されていることに改めて気づかされました。

おいしいワイン

プリア大使のお勧めで、食事に併せてメキシコ産ワインを少し頂いた。大使からは、バハ・カリフォルニア

州でとれるワインはメキシコ産ワインとして品質が高いことを教えて頂いた。アメリカ・カルフォルニア州の直下にあり、気候・土壌に恵まれて、美味しいワインができるようです。メキシコのお酒といえば、テキーラだと思う人が多いのですが、メキシコはアメリカ大陸最古（400年以上前）のワイン生産地です。ネットを利用して同ワインを購入できます。

アボカド・豚肉・マンゴー

日本のスーパーでなじみのあるアボカドはメキシコ産が殆どです。また、高品質のメキシコ産の豚肉が、日本の高級ホテル、また、サボテンや和幸といったトンカツ・レストランチェーンで使われています。アップルマンゴー（レインボーマンゴー）はメキシコ原産です。カボチャも中米（メキシコ・グアテマラ）が原産地です。

プリア大使は、以前に駐インドネシア大使もされており、フルーツがお好きで、フルーツの話でも盛り上がりました。ドリアン、マンゴスティン、ローガンといった名前を家内が申し上げたところ、ドリアンなど大好きですとの声が返ってきました。また、公邸シェフが用意された料理はデザートを含めてどれも美味でした。

マヤの人たちと日本人

プリア大使がお生まれになったチアパス州はメキシコ南東部にあり、グアテマラと国境を接しています。この地域からグアテマラ一帯は、マヤ文明が栄えたところです。マヤの各都市国家の間を人や物の往来が活発であったことが、最近になってわかっています。マヤ系の人たちはグアテマラ人口（1700万人）の半数以上おり、20以上のマヤ言語が今も残っています。また、マヤ文字はあちこちで発掘された神殿（石造りピラミッド）から発見されています。ゼロの概念があり、マヤ数字には20進法が使われており、日本の専門家がグアテマラ教育省と協力して作成した小学校算数教科書の各頁に算用数字とマヤ数字で表記されています。

マヤの人たちと日本人の共通点として、生後間もない頃に蒙古斑（はん）が体に残っている点です。また、生活習慣で興味深いのは、お風呂に入る時です。まず、洗い場で体を洗ってから湯舟（バス・タブ）に入る習慣があると、グアテマラ知識人からマヤの生活習慣としてお聞きしています。この話をプリア大使に御披露したところ、自分も小さい頃に外から遊んで帰り、自宅中庭（パティオ）で体を洗ってから、丸くて大きなバスタブに入っていたとの答えが返ってきました。この方が衛生的です。

大使との大変に楽しい会話が続く中、時間があっという間に過ぎてゆきました。美味しいコーヒーを頂き、記念撮影の後、プリア大使に大使館玄関口までお見送りを頂き大使館を出ました。

（令和6年8月24日記）

※筆者は、現在、外務省参与、和歌山大学客員教授。元駐グアテマラ大使です。